

高校生の就職率は 91%、7 年ぶりに 9 割超す

- 3 年連続で改善。40 都道府県でアップ -

平成 17 年 5 月 旺文社 教育情報センター

5 月 13 日に発表された、文部科学省の就職状況に関する調査によると、今春の高校卒業者のうち、就職を希望する者の就職率は、17 年 3 月末現在で 91.2%（前年同期比 2.2 ポイントアップ）と、平成 10 年以来 7 年ぶりに 90%ラインを超えたことが判明した。昭和 51 年度の調査開始以来、過去最低を記録した 13 年同期（86.3%）から 3 年連続でアップ。全ての学科（普通科、商業科、工業科など）、47 都道府県のうち 40 都道府県で前年同期を上回っており、高校生の就職事情は全体的に回復傾向にあるといえる。

同省初等中等教育局児童生徒課が行った本調査は、国立については国立大学、公立については各都道府県教育委員会、私立については各都道府県知事部局を通じ、全高校を対象に行った“悉皆調査”である。

今回判明した就職率（就職者の就職希望者に対する割合）は 91.2%で、15 年同期の 89.0%を 2.2 ポイント上回り、平成 10 年以来、7 年ぶりに 9 割を超えた。業績の回復傾向に加え、「団塊の世代」の大量定年退職を控え、製造業を中心に企業の採用意欲が高まっていることが背景にあるとみられる。

高校卒業者約 120.5 万人のうち、就職希望者は約 22.5 万人。このうち就職決定者は約 20.5 万人、就職に至らなかった者（未就職卒業者）は約 2 万人（男子約 8 千人、女子約 1.2 万人）となっている。就職率を男女別に見ると、男子は 93.4%、女子は 88.4%で、15 年同期に比べて男子は 1.9 ポイント、女子は 2.5 ポイント上回った。

学科別に見ると「工業」（96.4%）、「水産」（92.8%）、「商業」（92.7%）、「農業」（92.6%）、「総合学科」（92.3%）、「看護」（91.5%）、「家庭」（89.7%）、「普通」（86.7%）の順となっている。各学科とも 15 年同期を上回った。

都道府県別に見ると、40 都道府県で就職率がアップ、山形県が同率、6 県でダウンした。就職率が高いのは、福井県（97.7%）・山口県（97.1%）・秋田県（97.0%）・富山県（96.8%）・岐阜県（96.4%）...の順となっている。一方、就職率が低いのは、沖縄県（77.5%）・北海道（79.9%）・高知県（83.3%）・青森県（83.4%）・大阪府（84.6%）...の順となっている。

また、とくに就職率がアップしたベスト 3 は、沖縄県（6.7 ポイント上昇）、和歌山県（89.3%：4.8 ポイント上昇）、鹿児島県（89.4%：4.5 ポイント上昇）。一方で、最も就職率がダウンしたのは青森県（2.5 ポイント低下）であった。

なお、調査結果の詳細については、文部科学省のホームページ（<http://www.mext.go.jp/>）中の「報道発表一覧 平成 17 年 5 月 2005 年 5 月 13 日」をご覧ください。